

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「我が家の暮三カ条」1.お互いが人としての尊厳を重んじ合い暮らします。1.やさしさと思いやりを常に心がけ暮らします。1.暖かさ笑い喜びが共感できる暮らしを求めます。以上の理念を玄関ホール、リビングに掲示し、常にノーマライゼーションを基本としたケアにあたっている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	良く見えるところに理念を掲示して、常に念頭に置き、支援を行っている。また、OJTチェックリストを用意し、月の目標を計画して、5段階表に記入し自己意識を高めている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	自治会主催の会議には出席をして、現状の報告、今後の取り組み、課題等を説明、家族には施設に来院された時に説明をして理解を得ている。地域には広報誌回覧、家族には郵送で配布している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	法人の敷地内にはゲートボール場があり毎日開放をしております。畑で収穫した野菜をお裾分けもしております。すると地域の方々からは施設には無い野菜のお返しがあったりと地域住民とは良好な関係が続いております。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭り、郷土芸能、歌、踊り、幼稚園、小・中学校、地域の方々の慰問の都度、周辺が集落へ回覧で催しの案内をして、観賞をしていただき地域の方々との交流に努めている。自治会主催の盆踊り大会、新年交賀会、水路清掃、道路草刈等には参加をして地域の一員として参加しております。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	施設主催の感染症対策の講習会、研修会には地域の方々にも連絡をして、一緒に勉強をして予防に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善計画シートを用意して、職員会議で検討し実践に取り組んでいる。また、自己評価、外部評価で気付いた点も職員間で話しあって前向きに捉えている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催で実績、評価、取り組みを話し、行政からは指導の他に、他施設での取り組み等も紹介いただき、地域の人たちとの関係を重視しながら、サービス向上に努めています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に1回金ヶ崎町の介護相談員2名が来訪して、情報交換、相談、意見交換を行っている。施設で発行する広報誌も市町村の担当者、町の出先機関にも配布し、ケアサービスの取り組みを紹介している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	代表者が窓口になり、社会福祉協議会と連携を取りながら、必要な関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できる体制です。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事故防止委員会で内部研修。発見シート、ヒヤリハットシートの活用により虐待が見過ごされない注意を払っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>申込書受理後自宅等を訪問し、本人の身体状況と既往歴、内服状況、家族の介護力等を調査した後、不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行ってから契約を行っております。解約は本人と家族と良く話し合って理解を得ている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>月一度相談員施設訪問時、窓口には投書箱を設置、相談苦情担当者、第3者機関、も設けており問題が発生した都度対応。月1回開催の定例運営会議で検討をして反映している。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族来訪時には利用者の状態を報告、特変した時はその都度電話で報告。金銭管理は金銭出納長を都度明示、3ヶ月に1回報告書と受領書を家族に配布。職員の異動時には家族に報告をして随時対応をしている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議2名、評議員会1名それぞれ家族代表者として出席し、それらの方々の意見を運営に反映させている。サービス内容に関する相談、苦情専用窓口、投書箱、担当者も決まっております体制は整えられている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ユニット会議、定例運営会議で職員の意見提案により、それぞれの委員会で素案作成後に、運営に反映させている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>変形労働時間制採用により対応している</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人の人事考課制度を導入し、それに基づいて必要最小限の異動に配慮している。今年度は異動者なし。退職者もなし。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人一括でスケジュールを立て、年間行事計画に基づいて全員受講させている。また外部研修受講者は報告会にて研修内容を全員に報告。職員には資格を取得した際には、奨励金制度も設けており、職員の意欲向上を図っている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他グループホームの見学、交換研修など同業者研修会などに積極的に参加し、質の向上に努力している。また、事業所以外の人材の意見や経験もフルに活用してケアに励んでいる。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員一人一人の仕事の悩み、意見、要望を出し合い改善に向けて、取り組めるよう支援している。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>人事考課制度のチャレンジ目標の設定、シート作成、目標面接、自己管理、中間面接、相互評価、育成面接の実施により各自の向上に努めている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>申込書受理後自宅等を訪問し、本人の身体状況、既往歴、内服状況、家族の介護力等を調査し、不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行って理解を得ております。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>同上</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申込み調査後に判定会議で本人、家族が必要としている内容報告、支援内容、他のサービス利用も含めた内容で全員で確認して対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	状況に応じて家族と相談しながら対応している。最初は、できるだけ家族が寄り添うにして頂き、不安感を抱かせないように配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の大先輩として接していることは、調査時のケアの様子を確認しただけでも、十分に理解できた。また、職員は利用者の長所短所も理解しており、職員が利用者から教わっている様子がうかがえた。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	夏祭り、敬老会等各種イベントには家族も参加し、一緒に食事をしながら、近況を話し合っ本人を支えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が来訪した時、本人と直接会う前に、生活状況を報告してから会っていただき、家族の絆が深まるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	状況に応じて家族と相談しながら対応している。面会時には職員も同席し、面会者の紹介、あるいは近況報告等を行い、本人が戸惑いを感じないように支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日中は出来るだけ食堂、居間(和室)を利用させている。また全員参加のドライブ等も企画して、利用者同士の仲間意識の向上に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりを必要とする方には、広報誌を送付して近況を随時報告をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを図りながら希望や、意向の把握に努めている。意思疎通困難な利用者は、会話のなかに思いが見え隠れしていることが多く、聞き逃さなように配慮することで意思の把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所申し込み時点から、既往歴等を調査しており、生活環境を変えないよう努力しており、特に趣味を生かすよう創意工夫をしてサービスが低下しないようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	申し送りやケース記録の確認と、記録に努め把握している。利用者のバイタルチェック。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるように本人、家族の要望を聞き、医師、隣接の特養施設の看護師と連携し、ケース記録に記入して介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月に一度見直されるが、月一回のケース検討会議を行い、会議の中で話し合ったこと等を参考にしながら必要に応じて随時家族、本人の要望を聞き見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録、業務日誌に記録して職員全員で確認して、情報を共有し実践で活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	短期利用型共同生活、医療連携体制の指定を受けており、柔軟な支援が図られる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地元民生委員や定期的に訪問してくれるボランティアの方々と一緒に支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ケア会議に参加して意見、情報交換を行っている。必要に応じて支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ケア会議に参加して意見交換を行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医のほか、利用前からのかかりつけ医など、複数の医療機関と連携を密にしている。家族からの要望があれば随時通院介助等対応している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>協力医が認知症の専門医であり、一週間に一回診察を受けております。</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>隣接する特養には、常時看護師がおり、日常の健康管理、医療活用の支援を受けており、協働体制は確立しております。</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院は協力病院がほとんどであり、利用者が入院中は、定期的に看護師が訪問して、婦長から経過を聞いて退院に備えている。</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>終末期に対する対応指針を定め、利用開始時に十分説明を行っているが、状態の変化があるごとに、家族の気持ちの変化や本人の想いに注意し、隣接施設の看護師の協力を得ながら対応している。</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>協力医と家族が話し合っ、今後の方針を決め、その後に事業所で出来ること、出来ないことを話し合い、家族の了解を得て支援している。医師、家族には状況の変化の都度連絡を行い、指示に従い取り組んでいる。</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>利用者はほとんど隣接の特養への入所希望なので、イベント、行事等は一緒に行っており、顔馴染みの方もあり、また職員も利用者の方も覚えており、ダメージはほとんどありません。</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	OJTチェックリスト活用し、5段階評価項目を設け、点検し、利用者の誇りやプライバシーを損なわないように努力している。OJTチェックリストの活用は、よりよいケアへの取り組みとして評価している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者との対話を多く持ち、本人の思いを受け止めて、納得、安心できるように説明、声掛けし本人の意思を確かめてから、支援し信頼関係を築いている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	管理者が、ケース会議等で利用者を自分の親のように思い接する様に指導し、職員は毎日目標を立て利用者本人の気持ちを尊重するように支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族には時期毎に衣類の交換をお願いして、おしゃれを楽しむように努めている。理容・美容は月1回定期的に訪問してもらい身だしなみをきれいにしよう努めている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事を作り、配膳、盛り付けを行い、時には野外で食べたり、外食をしたり、施設内でバイキングを楽しんだり、季節の食材を取り入れたり、職員と利用者が一体となり活動している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	食材の買い物に利用者も同行して、自分の好みの物も買うように努めており、また食材の内にも利用者それぞれの嗜好品も調達するよう支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンのデータにより一人一人が確認出来たので、その時間に声かけを行って気持ちよく排泄が出来るように支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が一方的に決めず、その日の希望に応じて入浴して頂いている。時にはバラ湯、菖蒲湯等行い季節感を味わっている。バイタルチェックは毎日定時に行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居間(和室)で休息したり、眠れるように布団、椅子、コタツ、ソファを置いていつでも気楽に利用できるように努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居の時に経験、特技などを聞き取り、それをもとに日頃対応している料理、裁縫、洗濯物たたみ、野菜づくりなど、あくまで無理のない生きることへの支援活動できるよう努めている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に買い物に行くときは、預かり金の中からお金を渡して、職員が見守りながら買い物を楽しむように努めている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の習慣や特技などを聞き取り、隣接の施設に遊びに行ったり、散歩、外でのお茶のみ、山菜取り等できるだけ戸外にできるように支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	施設の車を使用して、利用者全員でぶどう狩り等、その時期にあわせて外に出かけ、気分転換を図りながら絆を深めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話器は事務受付カウンターに設置されており、いつでも電話がかけられるようになっております、手紙は希望者に対し、職員がお手伝いしながら支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居間(和室)は来訪者にも開放しており、気楽に談話が出来るように工夫して支援している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員で身体拘束廃止に向けて研修会を行い、正しく理解しながらケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	プライバシーには気を配っており、各居室入口ドアには内鍵をつけております。緊急時対応として、すぐ脇に外側から内鍵が外せる作りしております。日中玄関には鍵をかけないで、感知センサーを設置して見守りしながら、自由な暮らしを支援している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に声がけをして、所在の確認や様子を把握しながら、安全に生活が出来るよう支援している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態に合わせて管理及び保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	危険予知訓練に努め、事故の起こりやすい要因を把握し、危険を避けられるように配慮している。発見シート、ヒヤリハット、事故報告書を活用し、月一回事故防止委員会を開催している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	災害訓練終了後、全職員で看護師より応急手当、急変時の対応処置等の指導を受けている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回地域の消防団、防災機器取り扱いメーカーの指導のもと、災害訓練を行なっている。地域の方々とは日頃声がけをして協力を得ている。隣接の施設内には防火水槽も設置されており地元との協力体制は確立されている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	想定されるリスクは都度電話連絡、家族が来訪時に再度説明して今後の対応策を話し合っ常に対応している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日定時に検温、血圧測定をして体調管理に気をつけている。異変に気づいた時は、看護師に情報を連絡をし指示を仰ぎ対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋で確認を行い、看護師、係りつけ医と連携を図り体調の変化に留意している。服薬は各個人毎、1回毎に管理をして、都度職員が手渡しで行い誤薬防止と利用者の症状の変化の確認に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	適度の運動と、水分補給に気を配り、食物繊維を多く摂取する食事を提供、またトロミも活用して便秘の予防に努めている。トイレにはウォシュレットを設置してマッサージにも努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	1日2回実施、口腔状態の悪い方は毎食後実施をして、口腔内を清潔に保つよう支援をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>隣接の栄養士に食事量、水分摂取量などの指導をうけ、職員はそれぞれのチェック表をもとに栄養摂取量を把握している。定期的に体重測定を行い体調管理にも努めている。</p>	
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>隣接の施設と合同でマニュアルを作成し、その時期に研修会を実施して感染予防防止に努めている。</p>	
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>台所、調理用具は毎日、夕食後にハイター消毒している。残飯は毎日生ゴミ処理機で処理を行い衛生管理に努めている。食材は2日に1回青果市場の仲買業者より配達、畑の野菜は随時、買い出しは週3回といつも新鮮で安全な食材供給に努めている。</p>	
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>			
<p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>家の周りには畑や広い庭があり、庭にはテーブル3台、椅子12脚を常時配置して利用者、家族、来訪者、近隣の方々が気楽に休めるように配置をしていて、玄関にはいつも季節の花を飾っている。</p>	
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食堂、居間からは外の景色が見られ採光もよく、浴室、トイレはプライバシーが守られ居心地が良い。居間にはスナップ写真を飾って雰囲気づくりにも努めている。</p>	
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居間には掘コタツ、ソファ、リクライニング椅子もあり自由に利用できるよう工夫をしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはそれぞれ利用者の好きな花や絵、写真等を飾って自分にあった雰囲気づくりに努めている。家からは使い慣れたものは自由に持ち込むことが出来るように配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室、食堂、居間は毎日掃除を行っており、換気には十分気を配っている。冬場に向かったの各居室の温度調節はガスのFFストーブによって、温度調節を行っており利用者の体調に合わせた管理を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入浴時には一人で入浴出来るよう浴槽、手摺りを工夫、廊下には手摺りが設置されているので、歩行訓練等にも活用出来るよう工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	毎月のカレンダー作り、食材の下準備、食器洗い等これまでの経験を生かして、少しでも自立出来るよう相違工夫をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	隣接の敷地内にはゲートボール場があり、利用者が楽しむことが出来、芝生のところには垂れ桜が植樹されており花見も出来、花壇には季節の花も咲き楽しむことが出来る環境である。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホームだけでは難しい行事、慰問受入れ等については、隣接の施設と合同で開催できるので、利用者の皆さんは喜んでいる。